

保険福祉委員会云報生口

倉敷市自殺対策基本計画策定

国を挙げて自殺防止を図る「自殺対策基本法」が施行され、全国の自治体は制度作りに取り組んでいます。倉敷市もH26年12月にこの制度を策定し、H28年の施行を目指して、基本計画の要綱作りの段階です。多くの自治体が要綱を役所だけで取り組んでいますが、倉敷市は関係各所と職員と市議会が一体となって「オール倉敷」の名の元、審議会を行っています。私も議会を代表して会議に参加していて、この計画の整備と普及に力を尽くしたい。

健康寿命延伸に向けた地域づくりの推進

健康寿命を延伸するために、高齢者の社会参加を進め、地域の支え合いを強化することが重要であり、介護の専門サービスを確保しつつ、通いの場の充実など地域の実情に応じた地域づくりを推進する観点から、介護予防・日常生活支援総合事業「総合事業」及び生活支援体制整備事業「体制整備事業」が始まります。

※総合事業（平成28年3月）要支援者のホームヘルプサービス、デ

イサービスを全国一律の保険給付から市が地域の実情に応じて取り組む地域支援事業に移行するとともに、一般高齢者の介護予防の取り組みを充実する事業。

※体制整備事業（平成27年10月）地域づくりのための関係者を集めた協議の場を設置すること等を通じ生活支援の充実を図る事業。

認知症初期集中支援チームの設置

認知症になっても意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるように認知症の方、その家族に関わる「認知症初期集中支援チーム」（認知症サポート医、看護師等の医療職、介護福祉士等の介護職からなるチーム）を設置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築します。

訪問支援対象者とチームの役割

- (1) 訪問支援対象者
 - 40歳以上で認知症が疑われる人または認知症の疑いで在宅で生活している次のいずれかに該当する人
 - ①医療・介護のサービスの受けていない人、または中

断している人

②医療・介護サービスを受けているが、認知症の行動・心理症状が顕著で対応に苦慮している人

(2) チームの役割

訪問支援者に対し、チーム員が自宅を訪問し、状況を把握した上で、専門医の参加するチーム会議において、支援計画を策定。その計画に基づき、おおむね6ヶ月間の支援を行い、必要な介護や医療につなぎ、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう支援します。

今後の主なスケジュール

平成27年12月まで 国の認知症初期集中支援チーム員研修受講

チームメンバーの確定

平成28年度、支援チームを設置し、活動開始



たつ 竜の子新聞

第9号

市政報告
発行 あらき竜二
倉敷市川入 641-5
TEL & FAX : 086-434-8185
http://www.ryu2.biz
e-mail: info@ryu2.biz
facebook

市議会挨拶

市議会には2月、6月、9月、12月に開かれる「定例会」と「臨時会」「委員会」があります。この議会の中で大切な予算を決め、生活する上で欠かせない条例を決めるのです。今回は9月の定例会で可決された補正予算をご報告します。私自身は保険福祉委員会に所属して、副委員長として活動しています。

中学校普通教室エアコン設置事業

● 中学校26校の普通教室213教室（3年生133教室、特別支援学級80教室）へエアコンを設置します。9億6000万円

産後ケア事業

これまでの宿泊ケアに加え、新たに日帰りケアの利用者負担を軽減します。71万円

児童市民病院医療体制の充実

分娩を早期に再開するための修繕費用 600万円

観光客誘致事業

倉敷駅前から美観地区にかけて無料公衆無線LAN（Wi-Fi）環境を整

備します。3000万円

外国人観光客誘致促進事業

外国人観光客の受け入れ環境を整備・充実するため、事業者が宿泊施設などの案内誘導表示・メニュー等の外国語表記や、無料公衆無線LAN（Wi-Fi）の設置を行う経費を助成します。400万円

子育ての資源・魅力・交流事業

高梁川流域圏域における子育て中の親子が利用できるお出かけスポットの情報を発信します。541万円

高梁川流域移住交流推進事業

圏域への移住検討者に対し、就職活動住宅探し等の拠点として利用できるお試し住宅を提供し、移住の促進を図ります。206万円

・山田方谷の軌跡（奇跡）事業

高梁川流域圏域への観光客の更なる誘致を図るため、備中松山藩の財政再建などを行った圏域にゆかりのある幕末の偉人・山田方谷を顕彰するPR用ビデオの制作等を行います。425万円

・高梁川流域自治体ファシリタティマネジメント支援事業

倉敷市の建物点検のノウハウを活用して高梁川流域自治体の公共建物現況調査や建物台帳作成を支援します。184万円

(単位 千円)

区分	補正前の額	補正額	計	前年度同期比(%)
一般会計	182,345,613	4,761,226	187,106,839	104.6
特別会計	130,904,450	8,356	130,912,806	109.0
財産区会計	66,168	-	66,168	63.5
企業会計	51,770,062	44,100	51,814,162	110.5
合計	365,086,293	4,813,682	369,899,975	106.9

↑ 9月議会で可決された補正予算

『編集後記』

福島には妻の母親の実家がある。何度か福島に行き、美しい風景、人柄の優しさ、食べ物のおいしさ、福島が大好きでした。

震災後、福島に行った時、悲しみと怒りで体が震えた。あれから福島はどうなっているのか。皆さんと共に知りたいと思いました。

やはり意識させられるのは放射線数値か。原発からの距離は必ず話題になった。

それでも少しづつ数値は下がり、復興しつつある。東北人の強さと粘りに頭を下げるばかり。祈るばかりである。

倉敷は復興支援市である。現在でも支援を続けている市町村は数少ない。

今期も被災地に職員が向かった。釜石市には片山主事。大槌町には渡邊技師。県庁には難波主任。南相馬市には田邊技師。塩竈市には中原技師。どの方もつわものである。

今まで被災地に向かった全ての方に感謝を申し上げます。

あらき竜二

サミット教育大臣会合推進事業

・サミット教育大臣会合開催に向けた準備のため、PR用CD・パンフレット等の作成やおもてなし向上研修を実施します。事業費 1550万円

浸水対策事業

・荒神木井堰改修事業 6100万円

・十王堂川水門整備事業 500万円

災害復旧費

・台風11号により被害を受けた農業施設、林地、道路、少年自然の家体育館屋根の災害復旧及び、平成27年8月6日の火災で被害を受けた第一福田小学校の放課後児童クラブ室、プールハウス、体育倉庫の復旧を行います。事業費 3億2963万円

単独公営事業

・道路、橋りょう、河川、公園、農業施設、学校・園施設の整備事業費を追加します。事業費 8億0022万円

中庄団地建設事業

・平成28年度から「FFI」を活用し中庄団地（300戸）を整備するために債務負担行為を設定します。債務負担行為 54億1740万円

「東北の地へ」

2011年3月11日 あれから4年半。毎年、お盆休みを利用して東北被災地へ行くようになって今年で5回目を数えます。



去年までは大槌町を中心に岩手・宮城県とうかがっていましたが、今年は宮城県と初めて福島県に行きました。福島県は地震・津波被害だけではなく、東京電力福島第一原発事故という未曾有の被害を受けた場所です。

大事な故郷を離れざるを得なかった方々がいる。今でも、7村町は(飯館村、浪江町、葛尾町、双葉町、大熊町、富岡町、楡葉町)一部解除地区はあるものの住むことは難しい。「日常」ははるか遠い所にあるのだ。倉敷市は今も災害援助を続けています。最も必要とされている設計などの技術を持った市の職員を派遣しています。今回は被災地最先端にいる職員の方を訪ね、色々とお話をうかがいたいと思います。

「福島市」

まずは県庁所在地でもある福島市へ。担当者に話を聞いた。「ここ福島市役所は福島第一原発から62km離れています。穏やかな雰囲気から一変、空気が張り詰める。放射線と除染の話聞く。福島市はいち早く線量測定マップを作成。空間線量率を隠さず公表。0歳から中学生の全ての子供と妊婦を対象に被ばく検査を行い、医師等で構成された委員会より、将来のガンの増加の可能性は少ないとの結果を得た。



現在では積算線量計(ガラスバッチ)を全市民に貸し出ししているという。食品でも特に米は全量全袋を検査し、全てを公表している。除染も今年末には全ての地区が完了するというのだ。市の早めの対策が際立つ。しかしそれでも今も続く風評被害は抑えられない。だが、東北人の粘りでのこの問題も解決する日が近いのではないかと。市と民、一体となって進んでいる印象が心強い。

「飯館村」

飯館村に行く。飯館村は福島第一原発から40kmも離れているにもかかわらず、どこよりも高い放射線量数値がある。おそらく原発周辺レベルではないか。



風と地形の影響と言われているが、今年7月から昼間の立ち入りが可能になった。だが、長くは居られる場所ではない。写真撮って退散しよう。

今年9月5日 自治体ぐるみで避難している7町村に先駆け、いち早く楡葉町の避難指示が解除された。楡葉町は第一原発から16kmしか離れていないが、放射線数値は低いのだ。

それでも、帰宅するのは全人口の一割だという。帰宅しても、しかも辛い。難しい問題だ。



福島第一原発では一日7000人が働いているという。廃炉のために力を尽くしている。だが、先日、汚染水の漏れが発覚。東電は後手後手に回っている印象がある。長く続く廃炉までの道の入り口にも立っていないのではないかと。どうか早く、早くと祈る。

「南相馬市」

いよいよ南相馬市に入る。南相馬市は約3割が福島第一原発20km圏内に含まれる。避難指示解除準備区域内になり、立ち入りが制限されている。



しかし、ライフラインはほぼ復興したようだ。後は住民の帰りを待つのみか。倉敷の地を離れて東北に赴いた方々を心から誇りに思います。福島市の復興。まるでイバラの道だ。だが、いつかはきっと復興する。それを信じよう。願おう。さあ 倉敷に帰ろう...

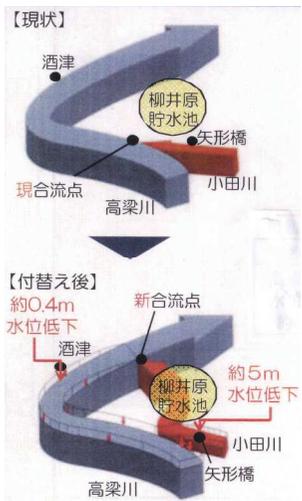
「塩竈市」

以前のような活気が溢れた町に戻る事は出来るのか。答えを探して。果然と立ち尽くす。

宮城県塩釜市に行く。津波で被害を受けたが、入り組んだ湾であったため壊滅的な被害は避けられたという。

あの時、東北の状況を見て、市と自衛隊は港を至急に整備。おかげでタンカーが3月22日には入港。もっとも切望されていた灯油とガソリンを東北の地に配る事が出来たのだ。この地には技術派遣された中原技師がいます。若くて優しいそう。設計の仕事を精力的にこなしている。頼もしい。中原技師に思い切って聞いてみた。派遣されてどう思うのか。「良かったと思う。役に立つことは嬉しい事です」

小田川合流点付け替えによる 水位低下効果のイメージ



※計算条件：計画降雨が発生した場合の高梁川及び小田川の流量

・洪水時の小田川水位が低下する↓矢形橋地点の水位低下約5m

・高梁川の現合流地点と新合流地点の間（付け替え区間）で小田川流量がバイパスすることにより、水位が低下する↓

酒津地点の水位低下約0・4m

効果

地域版

竜の子新聞

第9号

市政報告
発行 **あらしき竜二**
倉敷市川入 641-5
TEL & FAX : 086-434-8185
http://www.ryu2.biz
e-mail: info@ryu2.biz

小田川合流点付け替え事業について

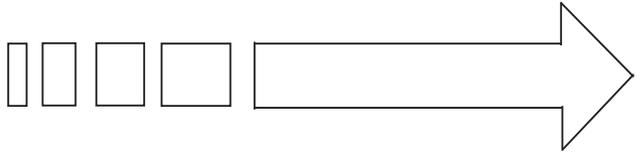
目的

国土交通省は、人口、資産が集中する倉敷市街地区間に位置する高梁川酒津地先の洪水時の水位低下を図るため、高梁川の支川である小田川に於いて高梁川との合流位置を4・6km下流に付け替えます。



工事着手までの流れ

H26. 4
事業化
(事業着手)



環境影響評価
調査・測量・設計
補償関係
ほ場整備

H31年度
工事着手
(仮設はH30年度)



①線路沿いの側溝の蓋かけ

(目的) ・道路幅員(路側帯)の拡幅
・自転車等の溝への転落の防止

(施工期間) 平成25年度～平成26年度(完成)



(施工前)



(施工後)

②舗装かさ上げによる歩道と車道の段差軽減

(目的) ・歩道の車乗り入れ部の傾斜を軽減
・歩行者等の車道への転落を防止

(施工期間) 平成27年度～平成31年度(予定)



(現況)

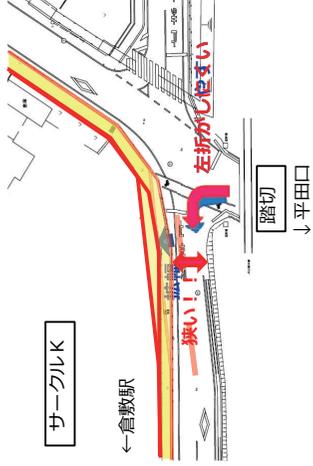


(段差軽減イメージ)

③踏切交差点の改良

(目的) 車道を拡幅することで、車の通行を円滑にする。

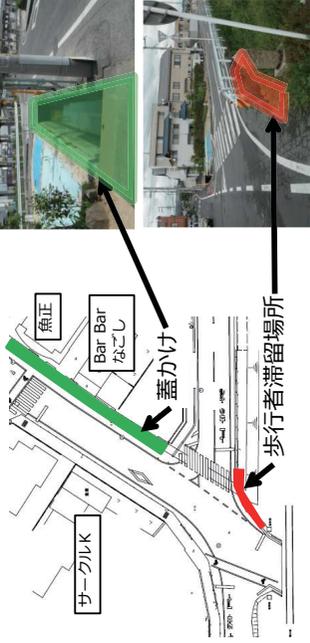
(施工期間) 平成27年度(今年度施工)



④水路蓋・歩行者滞留場所の整備

(目的) 水路の蓋かけ及び歩行者滞留場所を整備することにより、歩行者等の安全を図る。

(施工期間) 平成27年度(今年度施工)



地域版

竜の子新聞

第9号

市政報告
発行 **あらしき竜二**
倉敷市川入 641-5
TEL & FAX : 086-434-8185
http://www.ryu2.biz
e-mail: info@ryu2.biz



万寿小学校～万寿幼稚園～翠松高等学校南側の JR山陽線と平行する市道整備

浜町2丁目から平田地内において、JR山陽線と平行する市道は、北側に歩道があるものの、歩道部の幅員が約1・6m程度と狭く、歩行者、自転車の通行に支障をきたしている。また、マウンドアップのため出入り口部分が切り下げされており段差が生じている。通学時間帯には、歩行者が多く自転車で幼稚園へ送迎しているお母さん方は歩道のない側の路側帯を走行し、交通の安全性が低下していたため平成25年度～平成26年度で歩道のない側の側溝の蓋掛けによる路側帯の拡幅を行いました。(裏面①) 又、さらに、通行者の安全性を確保するため今後平成31年度までに歩車道段差軽減(裏面②) 板宿踏切交差点の改良(裏面③) 周辺の水路蓋掛けを行います。(裏面④)

当初の計画で、センターラインをなくし自転車道路の整備を行う予定でしたが倉敷警察署より、センターラインをなくすと交通量が多いため車両運転者は対向車と自転車の両方の安全確認をしながら運転する必要がある、高齢者等の運転操作ミスにつながる可能性があり、車道は2車線必要との回答がありました。代案として、センターラインは残したまま交差点手前に減速破線(白の点線)を表示することにより、車両の減速を促す対策を実施することとしました。今後の課題として、生活道路としての役割を明確にし速度規制の見直し(40km/h→30km/h)も検討していかなければならないと考えます。

